



わらしべの里通信

社会福祉法人
わらしべの里

第12号(通巻26号)
発行日
2008年1月22日
発行所
わらしべの家
パソ工房

おとしべ

社会福祉法人わらしべの里の

制度としての発足は、平成十三

年からである。しかしその前の

昭和五十五年から財団法人の認

可をいただき、障害者福祉作業

所の運営をしていた。さらにそ

の前、昭和五十年に自宅の庭先

で地域の子どもと障害児の遊び

場作りを構想し、近隣住民の

方々の参加・協力をえて『とちぎ

子どもの家』というボランティア

アの事業を、簡易なプレハブの

建物で始めていた。

そのころから数えると、約三

十三年も経っている。今では、一

般住宅と農地が混在する地域の

なかに耐火建築二階の建物二棟

で、三十人の障害をもつ人たちが

が毎日通ってくる「認可施設」に

なっている。周辺の地域の方々

の暖かいご理解の上に、この施

設は地域に受け入れられている。

今も、ご近所の方から、嶺梅・

南天・シンビジウムなどの綺麗

な花を一抱えも届けていただ

いた。

ここまでの長いあいだ、わら

しべの里を社会に産み落とし、

その成長にかかわってきた者と

して、深い想いにひたっている。

金坂直仁

わらしべの家、仕事始め



わらしべの家も順調に

大きく成長し続けますように

願いをこめる

長いようで短い年末年始の休みもあつという間に終わり、二〇〇八年一月七日朝、新しい気持ちで新年の仕事を始めるかのように、元気がよく出勤してきた仲間たち。

お互いがお互いの顔を合わせると自然に、「新年、明けましておめでとうございませう」と挨拶をする。皆が会う人会う人に挨拶をするものだから、あちらこちらで新年の挨拶が聞こえ、わらしべ全体に新年の気持ち良い空気が満ちていた。

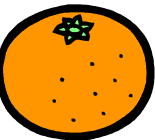
「何の仕事でも力を抜かず頑張りたい」

「もう少し家の手伝いができるようになりたい」

初日は仕事をせず食堂に集まり、利用者自治会主催で、仲間一人一人が今年の抱負や目標を発表し合ったり、施設長の話を聞いたりなど、新たな気持ちを共有する時間を過ごした。

今年の抱負を一部紹介させていただくと、『自然としゃべること。みんなといたい、仕事は目標をもって、取り組みたい』、『これから

顔合わせに、笑顔そろろう



新年の給食風景。

も、一年間仕事をがんばります』、『仕事中は周りを気にしないで集中して、何の仕事でも力を抜かず、頑張りたい。特に、プラスチック部品組立作業は、一日あたり五千個目指して、頑張りたい』という仕事に熱心な意見が聞こえたり、『みんなと、ずっと仲良くすることで』、『皆と一緒にこれから頑張っていくことです。今年の目標は、もう少し家の手伝いができるようになりたいです。今年もみんなと仲良くしたいです』など人間関係や、家での役割を自覚した抱負が沢山聞こえた。

三十人全員抱負を発表し終えたあと、みんなを選んでカラオケの曲が流れる中、みかんを食べ、コーヒーを飲みながらそれぞれ年末年始にあつたことを話し、「わらしべの家で、十日ぶりに職員の皆さんや仲間たちにあえて、嬉しかった。また明日から少しずつ仕事をみんな頑張ります」と、翌日から始まる仕事に備えていた。(混む)



栃障協施設交流会

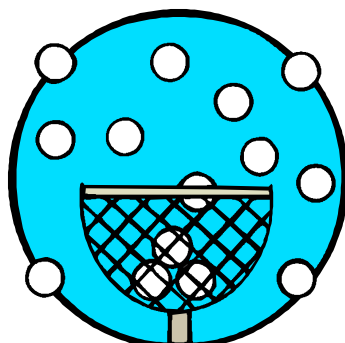
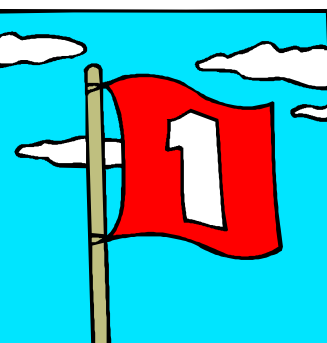
秋は、読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋・・・十一月十四日(水)に栃木市障害者施設協議会主催によるスポーツ交流会が、利用者同士が交流を深め、楽しいひとときを過ごすために開催。栃木市総合運動公園体育館

運動になって、楽しかった

張って下さい」と応援メッセージを頂いた。そのあとの選手宣誓は、わらしべの家と他

にわらしべの家を含む市内の障害者施設八施設が集まって交流を持った。今回で七回目の開催だ。

開会式は、来賓に栃木市市長を迎え、「この街で住みやすい街づくりを目指しています。頑



カルフルとちぎ2007・こころのつどい

十一月九日～十日の二日間、宇都宮市で栃木県障害者文化祭「カルフルとちぎ2007・こころのつどい」が開催され、わらしべの家は、初日の午後に参加した。

今年も「芸能部門」に出場し、毎日二十分間という時間で練習を重ねてきた「ベスト・フレンド」を発表した。歌詞は今までにめぐり逢ったいろいろな人に感謝の意を込めて書かれたもの。練習中から、「お父さんやお母さん、誰か大切な人を思い出してうたってください」と言われて歌うたびに誰かを想っているような表情を浮かべ、三十名でのハモリを強めていった。



カルフルとちぎ2007で、「ベスト・フレンド」を発表する仲間たち。

緊張せず舞台をこなすことができてよかった

九日午後、会場入りを控えた仲間と職員は、文化会館で他の施設の人のための舞台を鑑賞し、養護学校の生徒と短大生によるチアリーダーリングなどに拍手を送っていた。わらしべの家の本番終了後、仲間からは、「今年は、自分たちの公演の前に養護学校、障害者施設の皆さんによる発表を見られて、緊張せず舞台をこなすことができてよかったです」と話していた。(混む)



「ベスト・フレンド」発表終了後、観客にあいさつしている。



施設の利用者の二人が声を合わせた。わらしべの家の代表として、選手宣誓をした利用者は、「呼ばれるとは思わなかった。緊張したけれど、嬉しかった。うまく出来たかな」と感想を語った。

開会式後「必殺! 皿返し」、さらに「玉入れ」や「綱引き」など七種目が行われた。今までは、各施設から一種目に何人でも参加していたが、今年は一二人二種目までの参加となった。わらしべの家は白組として活躍した。玉入れまでは白組が勝っていたが、綱引きでは紅組に逆転されるなど勝負の行方から目が離せない状況となる。



交流会の縄引きで、「ヨイショ」とかけ声をかける仲間たち。

障害者のためのユーザビリティ/アクセシビリティを考慮した実践的サイト作成研修開催される

十一月五日から十二月十二日まで十五回にわたって、「障害者のためのユーザビリティ/アクセシビリティを考慮した実践的サイト作成研修」がいばらきー人材開発センターの協力のもと、わらしべの家・第2作業所で開催された。



この研修は、Webサイトを見るひとが、より使いやすく、より満足していただけるために、Webサイトをどのように作るかを学ぶ研修会の一つである。参加者は、市内にある福祉施設に通う男性一名、わらしべの家パソ工房で働く男性二名の合計三名。三名ともスキルアップを目的に参加していた。会場は、日差しがさんさんと差し込む広い部屋であった。講師は、お一人。Webデザインの概念的な部分を中心に、Webの特性、Webの仕組み、レイアウトの基礎やユーザビリティといったWebデザインの基本に関わる最重要部分を取り扱われた。私たちは、演習を通して、アクセシビリティに考慮したWebサイト作成が可能な知識・技術を習得した。

PC技術の大幅なレベルアップができました!!

「図形を変形するのは、自由変形ツールを使ってください」スクリーンを見ながら、参加者たちはパソコンを操作する。先生が、授業を進めようとすると「先生、データがどこかへいってしまったので、助けてください」と参加者の一人から悲鳴が上がる。研修はパソコンとの戦いでもあった。その中でFLASHアニメーション作成ソフトを使用し、花にじょうろから水をかけて花を咲かせるまでのアニメや、ロボットが、星空を飛び回る、ロボットやロボットが飛び回ってホームページにきてくれた訪問者を歓迎するという三種類のアニメを思い思いに作り、練習用に作ったホームページに貼り付けた。

一カ月半で、参加者と講師の絆深まる

先生と参加者たちは、十二月に入って、一カ月半と言う時間を「早いね」とお互いにかみ締めあった。「受講前、最近出たオペレーションシステムWindows Vistaで、皆と一緒に講習会ができるかなと不安だったけれど、一緒に楽しく、ホームページやアニメを作れたことがよかった」、「二〇〇〇年に通信教育で、ホームページデザインー養成講座を受講し、今年改めて受

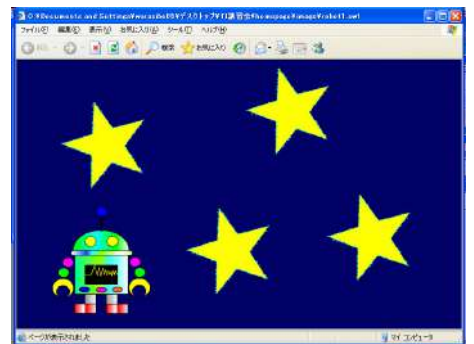
けてよい勉強になったので、糧にしたい」、「僕の夢は、福祉事業所を設立すること。そこで、ホームページ作成事業をやりたいので、この講座はその糧となっている」と参加者は感謝していた。

先生の一人名、「公民館でも、障害者施設でもせっつかく仲間となれたと思ったら、研修はもうおしまい。いつも出会いと別れを繰り返しています。研修会のために、時間を割いていただいて、ありがとうございました。」と話していた。

十二月十二日研修最終日、今まで作ったデータは、CD-Rに収められ、参加者たちにお土産として渡された。正午過ぎ何年かあとの研修で再び出会うことを信じ、閉会した。その目には、うっすら涙が浮かんで絆が深まったことを物語っていた。(混む)



スクリーンを見ながら、参加者たちはパソコンを操作している。



Flashというソフトを使ってロボットや星がキラキラと光るアニメ作品。

<自主製品事業日記>

る。そうやって出来あがった作品・製品をわらしべの家パソ工房の手づくりホームページで観ることが出来る。ふと気になった方は一度、御覧にな



まちかど美術館で、作品を眺める自主製品事業の仲間たち。

自主製品事業のみんなは、その一連の作業をすることがあたりまえだと思っ

「おはよう！」わらしべの朝の第一声は、いつもこの言葉から始まる。十二月にもなると、寒いこともあってか、口が開かずなかなか「挨拶(あいさつ)」ができないこともあるのに、なぜか春夏秋冬、わらしべの仲間たちはあたりまえの様にあいさつをしている。それも、元気いっぱい!! あたりまえのことがなかなか難しいと思いませんか? 自主製品事業では、さをり織りを主に活動している。いつも同じことの繰り返し…。糸を準備し、選び、もくもくと「カタ」、「コト」と織っていく…。そして、その繰り返しがつひつひの大切な作品を創っていく。

もしかして??

さ を り 織 り 製 品 が、
の る い
手 に 入 る イ ベ ン ト 情 報



美術館を彩るさをり・タペストリー。

イベント名	日時	場所
栃木県立がんセンター生協販売	3 / 5 (水) 10:00~14:00	宇都宮市陽南4-9-13
第3回 手づくりカントリーマーケット	3/13(木) 10:30~14:00	野木町エニスホール(野木町友沼181)

ってもらいた
い。もしかし
て? 自分や
周りの人たち
に、必要な「あ
たりまえ」を
していくこと
が「いいこと」
だと、わらし

イベント会場で、お越しをお待ちしております。



社会福祉法人わらしべの里

『わらしべの里通信』第12号(通巻26号)
発行元 社会福祉法人わらしべの里
発行責任者 金坂 直仁
編集者 わらしべの家パソ工房
〒328-0011 栃木市大宮町2708-3
電話 0282-27-1627
Fax 0282-27-1675
E-mail warasi-nk@cc9.ne.jp (事務所)
http://www.cc9.ne.jp/~warashibenosato/

二〇〇八年、明けましておめでとうございます。今年もわらしべの家及び「わらしべの里通信」をよろしく願います。
私がこの通信作成の担当になってから、今回で、十回目の通信を発行することができました。最初のうちは、一年に一回しか発行ができなかった年もありました。
何の記事を載せようかと迷いながら時間が過ぎてしまい、なかなか締め切りに間に合わずに当時の担当職員に「またかい」と言われ、通信を春・夏号や秋・冬号を合併号として年に二回発行したりしていました。
僕が通信を作成するようになって感じたことは、年四回発行することも難しいのに新聞社の方たちは、今日起きた出来事を明日の新聞に合うように、毎日載せているということです。すごいなあと思います。
今では、わらしべの家の皆に助けってもらいながら約三回の発行ができて、最新のわらしべの家の情報を伝えられるようになりました。これからも続けたいと思いますので、よろしく願います。(範)

編集後記